

ないこと」を、言葉ではなく体験で学んでいくのです。当然泣き出す生徒もいますし、いったん落ち込む生徒も出ます。指導する教師は到達目標をしっかりと見据えながら、子ども達の成長の具合を細かく確認しながら慎重に、ときに大胆に誘導していき、最後は子ども達自身の自主的な集団で民主的に運営でいるような力をつけていきます。これが今、国内の学校ではほとんど不可能になってきています。宿泊行事や危険を伴う遠泳・臨海学校、数十キロ歩かせる“遠足”、伝統だった“激しい体育祭”も、事故が起きた場合の管理責任を負わされることを恐れて国内の学校が次々に撤退していきました。これらの行事は、子ども達への集団指導の素晴らしいキッカケになっていたのに、です。

社会に出た場合、少々理解力や計算力の違いなどよりこの Social Skills の違いの方が社会的成功に非常に大きなウエイトを占めることは社会人であるご父母は全員わかっていらっしやと思います。もともと低い Social Skills しか持たずに学校を卒業し、ニートやフリーターになってしまいワーキングプアになっている若者の増加が近年日本では問題視されていますが、原因のひとつがここにあると私は考えています。



キャンプ：リーダーの説明に注目！



遠泳のあと：全員、泳ぎ切りました！

茗溪学園は 1979 年経済成長の中、子どもの教育にひずみが生まれ始め、日本の若者が勉強だけするけれどタフさに欠けひ弱になっていると指摘されていた時代に、これに答えを出す教育実験校として日本の教育界を支える東京教育大学同窓会の茗溪会が設立しました。高い知性を備えながら行動力を持ち危難に面しても常に前向きの発想ができる若者を育てる教育システムを本当に構築できるか。海外に活躍の場を求めて、世界中の人々と協力し、負けないタフさをどのようにして身につけさせることができるのか。その答えを探し続け、ノウハウとして蓄積してきました。そのひとつが Social Skills Training をベースにした Study Skills Training です。こういう表現に直したのは本校でもここ数年ですが、創立以来学級と学年における集団指導でいやというほど生徒同士をもませ、寮生活や宿泊行事、その準備段階から深く広い取り組みを行い、“集団活動の質”を高める訓練を行いながら、調査活動やレポート作成にも取り組ませるトレーニングを行ってきたことは卒業生なら全身体験済みです。

次回、「Social Skills (2)」では、
茗溪学園で実際に行ってきた事例をご紹介します。

茗溪学園中学校高等学校
〒305-8502 茨城県つくば市稲荷前 1-1
TEL. 029(851)6611 (代) FAX. 029(851)5455
www.meikei.ac.jp

田代 淳一（たしろ じゅんいち）

茗溪学園中学校高等学校 教務部長・教員（化学）



茗溪学園では前向きで明るく逞しく積極的な青年が育っています。

「有名大学に行きたいから勉強する」のではなく、「中学・高校時代にいろいろな事に挑戦し、失敗し、考え、自分を探して、自分で自分の将来をみつめ、自分で歩いていく。その方向が地球を救い、人類の未来を拓く方向であってほしい。」そう考え、支援するのが茗溪学園の教員の役割です。

海外生・帰国生が自分の力で自分の未来を切り拓いてきた経験はここで開花します。



茗溪学園が考える Social Skills の意義とトレーニングの概略の紹介です。Study と Social の両スキルをバランスよく発達させる教育が、この学園の創立時から目標であったのがわかりました。

「個人をベースにしたチームワークの力がアメリカの子どもたちには欠けている」と現地校の校長から聞いたことがあります。教室内のディベートのように、個人の意見をぶつけ合って、集団としての意見を形成するのが民主主義の根幹です。しかし、自分の意見だけを声高に繰り返す子ども（大人？）がアメリカでは増えているとの指摘です。アメリカでも Social skills のトレーニングが学校（社会）の課題のようです。

そのアメリカで育った日本の子どもたちの宝のひとつは「自分の意見を言う」ことです。しかし、日本帰国後の集団での活動の中で「帰国生の短所」として指摘される「集団の一員としての力」の欠如は、子どもが将来社会人となった時にも欠点になるのでしょうか。その解決方法は？